The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	デザインミュージアムとそのコンテクスト
Author(s)	中坊, 壮介
Citation	デザイン理論. 2019, 73, p. 116-117
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71213
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

デザインミュージアムとそのコンテクスト

中坊壮介　京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系

ロンドンのデザインミュージアムは1989年にテレンス・コンラン卿によって，テムズ川沿いタワーブリッジ近くのバナナ倉庫であった建物を改装し設立された。

その後2016年にロンドン・ケンジントン地区に規模を拡張して移転される。

ロンドンデザインミュージアムの起源は1978年まで遡る。

テレンス・コンラン卿は後に共同設立者となるデザイン批評家スティーヴン・ベイリーに，かつて Victoria & Albert Museum（以下 V&A）が自身にとってそうであった様に，学生のインスピレーションの源となるようなものを作るという相談を持ちかけた。

そのアイデアはまず1981年に V&A の企画展「Boilerhouse Project」として実現する。

コンラン卿が，自身が学生であった時にインスピレーションの源であったという V&A はその前身である Museum of Manufactures として1852年にブライトンに設立された。

以降，装飾美術やデザインの博物館として，幾度かの移転と名称変更を経てロンドン・ケンジントン地区の現在に至る。

実際に足を運んでみると，作者不明の古い工芸品から最新のデザインまで，圧倒的な数の万国の品が展示されているが，その規模にも関わらず入場は無料であり，子供や学生の教育のためのツアーやイベントを積極的に行うなど，イギリスにおけるデザイン教育の在り方がよく理解できる博物館である。

そういった環境が学生であったコンラン卿に大きな影響を与えたことは想像に難くない。

デザインミュージアムはこの V&A をよりコンテンポラリーな形で現代の学生たちに提供する場として生まれた。

非常に明快なコンセプトを持ったミュージアムであった。

このデザインミュージアムはより大きなスペースを求め，10年以上空き家となっていたケンジントン地区の歴史あるランドマーク，コモンウェルス協会に移転することとなる。

正常な発展に見えたミュージアムの移転であるが，運営から退いたスティーヴン・ベイリーはこの移転が歓迎されない理由として，移転先がいわゆるファッショナブルなエリアであるということ，以前のミュージアムでは設立者の彼らが共有した信念が完璧に反映されていたのに対し，新しいミュージアムはより出資者の考えが偏ったものであることが挙げられる，と批判している（THE SPECTATOR, 13 Aug. 2016，新ミュージアム開館直前の記事）。

V&A でのコンラン卿の体験から，その V&A で行われた企画展 Boilerhouse Project としてはじまり，その後博物館として多くの学生へ影響を与えてきたであろうミュージアムが，これまでとは違った考え方の元に再始動した，ということなのだろう。

これはあくまで運営を離れた共同設立者であったスティーブン・ベイリーの個人的見解

ではあるが，過去から現在に至るデザインミュージアムの進んできた道を流れとしてみると，移転によって大きな変化があったことは間違いない。
　一つの線でつながっていたコンテクストが，移転という出来事を機に途切れてしまったということなのかもしれない。

　この例を見ても，ミュージアムにとってそのコンテクストに目を向けることは非常に重要だと思う。
　場所や規模，何を収蔵，展示し，誰のため，何のためのものなのか，といったそのコンセプトは，脈略のないアイデアを集めて作られるべきものではなく，やはり歴史や場所性，社会的意味などを一つの流れとして捉えることで強いアイデンティティを持つものとなるのであろう。

　日本にデザインミュージアムを作るという時，果たしてどの様なコンテクストの中でそのコンセプトを構築できるのだろうか。
　日本のデザインミュージアムを構想するにあたって，その存在をコンテクストで捉える，ということの可能性を問いたい。